

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	神経眼科学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 火曜4,5限	教室名	1002教室
担 当 教 員	黒川歳雄	実務経験と その関連資格	視能訓練士免許(実務26年)。日本眼科学会会員、日本神経眼科学会会員。			
《授業科目における学習内容》						
神経眼科疾患の基礎的な知識を整理し、神経眼科疾患に対する検査のアプローチ、診断につながる所見のとり方等を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
本試験および小テスト(割合8:2)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『視能学』、『視能矯正学』						
《授業外における学習方法》						
事前に『視能学』の関連する項目を事前に読んでおくこと。毎回、授業終了後プリントの内容を復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床の場で「使える」知識となることを想定し、主体的に授業に参加し吸収してもらいたい。疑問に感じたことや興味深く感じたことなどあれば直接でもよいし配布のワークシートなどを通してコメントを出していただきたい。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	眼筋麻痺・複視患者に対する対応をおぼえる		プリント、『視能 学』	前期で習ったことを復習 しておく	
	各コマに おける 授業予定	眼球運動検査の進め方 9方向眼位				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	Hessの取り方と読み方の基本をマスターする		プリント、『視能 学』		
	各コマに おける 授業予定	眼球運動検査の進め方 Hessチャート取り方読み方				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	麻痺筋の判定法をおぼえる		プリント、『視能 学』	前回復習	
	各コマに おける 授業予定	眼球運動検査の進め方 診断的むき眼位				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	眼球運動異常を示す疾患と機序について理解を深める		プリント、『視能 学』	前回復習	
	各コマに おける 授業予定	眼球運動異常各論 核・核下性				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	核上性の障害について理解する		プリント、『視能 学』	小テスト(眼球運動評 価)	
	各コマに おける 授業予定	眼球運動異常各論 核上性				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	機械的障害がなぜ起こるのかをイメージできるようにする	プリント	前回復習
	各コマにおける授業予定	眼球運動異常各論 筋原性 眼窩内		
第7回	授業を通じての到達目標	眼振の患者さんとの向き合い方を知る	プリント、『視能学』	前回復習
	各コマにおける授業予定	眼振の評価法 I		
第8回	授業を通じての到達目標	眼振疾患を理解し、対処法を身につける	プリント、『視能学』	復習(眼振の記載法)
	各コマにおける授業予定	眼振の評価法 II		
第9回	授業を通じての到達目標	視神経の解剖や構造についての基本的な知識を押さえる	プリント、『視能学』	小テスト(眼球運動障害、眼振)
	各コマにおける授業予定	視神経の見方		
第10回	授業を通じての到達目標	ふつうでない視神経を見分けることができるようになる	プリント	前回復習
	各コマにおける授業予定	視神経の形態異常		
第11回	授業を通じての到達目標	腫れている視神経を見たときの鑑別ができるようになる	プリント、『視能学』	前回復習
	各コマにおける授業予定	視神経乳頭腫脹		
第12回	授業を通じての到達目標	眼底が正常の視神経障害について理解する	プリント、『視能学』	前回復習
	各コマにおける授業予定	球後視神経炎		
第13回	授業を通じての到達目標	様々な視神経障害についてその成因や背景を理解する	プリント、『視能矯正学』	小テスト(視神経障害)
	各コマにおける授業予定	視神経症と視神経萎縮		
第14回	授業を通じての到達目標	視神経障害と混同されやすい鑑別疾患をおぼえる	プリント	フリッカー検査・立体錯視現象実習
	各コマにおける授業予定	視神経障害と類縁疾患		
第15回	授業を通じての到達目標	全体を反芻し内容を確実に身につける	プリント	総復習
	各コマにおける授業予定	後期の復習と国家試験問題研究		